

演題名：人文社会科学や情報工学の研究者との共同研究でみえてきた知見

医療現場は、社会の複雑化や経済の二極化に伴い、日々複層的で煩雑な課題に直面している。これらの課題に取り組むためには、「超スマート社会」(Society 5.0)の理念のもと、人文社会科学と情報工学の知見を統合した多角的なアプローチが求められる。これまでの臨床研究では、属性や変数、アウトカムに関連する数値やカテゴリーをもとに統計的手法を用い、相関や因果を検証し、介入効果を評価することが多かった。これに留まらず、医療現場の実態を明らかにするためには問いの前提を検証し、観察される行動の背後にある文脈を読み解く研究なども重要となる。本発表では、私が人類学者や情報工学者と共同で行った研究の経験を踏まえ、問いと方法論の選択をはじめ、人文社会科学と情報工学の専門家との協働によって得られた知見について考察する。異分野の研究者との協働により、医療現場の課題に対するより深い理解と、効果的な解決策の開発へとつながる道が拓かれることを期待する。